

[様式 1]

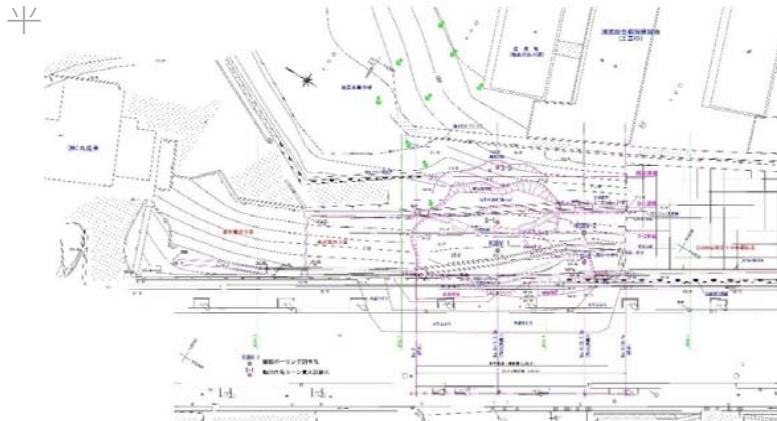
法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田			延長	29 m		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)			法勾配	崩壊前 1:1.25 ~ 1:1.40	完成年月	昭和55年以前と推定	
地形	崖錐地形、崩壊跡地(地すべり地)、台地の裾部、脚部浸食、集水型斜面、凸状尾根型斜面、鞍部 丘陵地 段丘(丘陵地切土のり面)							
地質構造	島尻層泥岩小断層 粘土破碎帶							
湧水状況	湧水あり(工事掘削で堅固な塊状泥岩からを確認)							

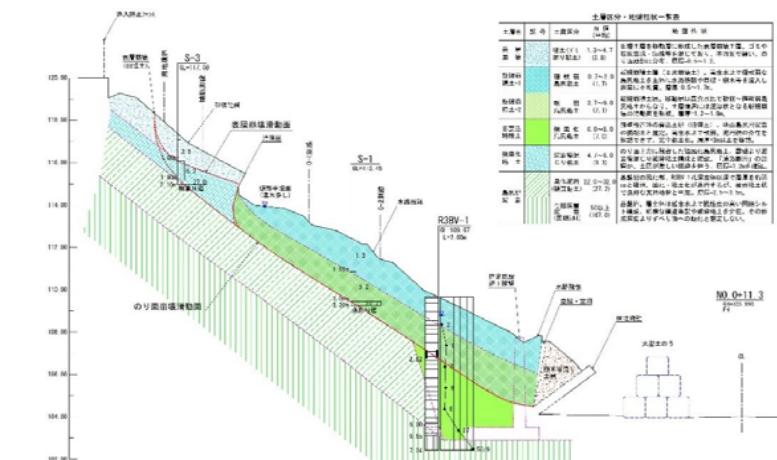
周辺地山の状況(崩壊箇所との相違点や地形地質の違い)

- ③ 法肩への流下水の集中状況(崩壊部：洗掘溝を形成・周辺地山：無し)
 ④ 法面と構造物の境界部の洗堀、割れ目、空洞等(崩壊部：排水路崩落・周辺地山：無)
 ⑤ 構造物周辺の地盤の洗堀、沈下等(崩壊部：洗掘による小崩壊・周辺地山：無)
 ⑥ 法面排水溝の確保、機能不能の発見(崩壊部：機能喪失・周辺地山：機能中)
 ⑦ 法面側方部、下方部からの湧水状況(崩壊部：有・周辺地山：不明)
 ⑧ その他：同様地質地形の切土のり面。崩壊部左側(L=30m)は、間知擁壁(高2~3m)、H11年災で枠工(口300*300)とH形鋼杭(L=6.0m, @=2.0m)を追加、天端水路は押し潰れ変状中。右側(L=40m)は、地上高5m逆T型擁壁、のり面は未対策。

【平面図】



【断面図】



【地形地質構造】

・斜面概要：島尻層泥岩を基盤岩とした丘陵地形(高位段丘)の南東向きの切土のり面、比高13~15m、勾配1:1.25~1.40、頂部は旧段丘面を改変して構築した平坦面(集水域)。同斜面の隣接区間では、H11年、H13年、H29年のり面災を発生。

・地層構成：崩壊地では、頭部には「埋土層、層厚1.0m」、「強風化粘土(島尻粘土)層、1.2m」、滑落崖下方には「崩積土層(移動層、2~3.5m)」、「旧裏込め土層(擁壁背後)、3~6m」、「風化泥岩層」と「与那原層泥岩」を確認。移動層は強風化粘土～旧裏込め土層からなると推定。

・地質的特徴：「浦添断層」の2次断層群区域にあたり、滑落崖には、強破碎泥岩(泥岩礫混じり破碎粘土主体)の露頭が確認され、地盤の破碎や不連続亀裂群等の介在をボーリングコアで確認。

【災害・変状概要(要因)】

2021年6月梅雨前線豪雨により誘発されたのり面崩壊。約30m連続した頭部滑落崖と両翼滑落崖を形成してその落差1.0~2.2mに達し、約3m程大移動により明瞭な崩壊ブロックを形成。既設「逆T型擁壁、地上高3~5m、幅20m」と「間知ブロック積み擁壁、高2.5m、幅7m」は倒壊。

・事前対策工：なし

・崩壊・変状の発生状況：

2021年5月中旬に擁壁傾斜し始め、6月14日、15日豪雨(28mm~34.5mm/h)に伴ってのり面崩壊が発生し、傾斜した擁壁が倒壊。

・素因・誘因：

・梅雨前線豪雨(頂部平坦面)による大量地表水発生・流下に起因して洗掘・小崩壊を誘発し小段端水路が崩落。(最大誘因)

・斜面基盤岩を構成する島尻層泥岩には、構造的弱層が多く介在し、岩質劣化、土質強度の低下が発生素因。

【被災後の対策工】

・設計思想：①崩壊土層表層部(有機物等混じり)を1m程排土除去し、排土後の法面安定と擁壁高の低減を図る。②復旧擁壁の裏込め土の法面を安定勾配(粘性土1:1.80)に形成。③頭部急傾斜面は用地制限のため、現状維持の為の工法を採用。

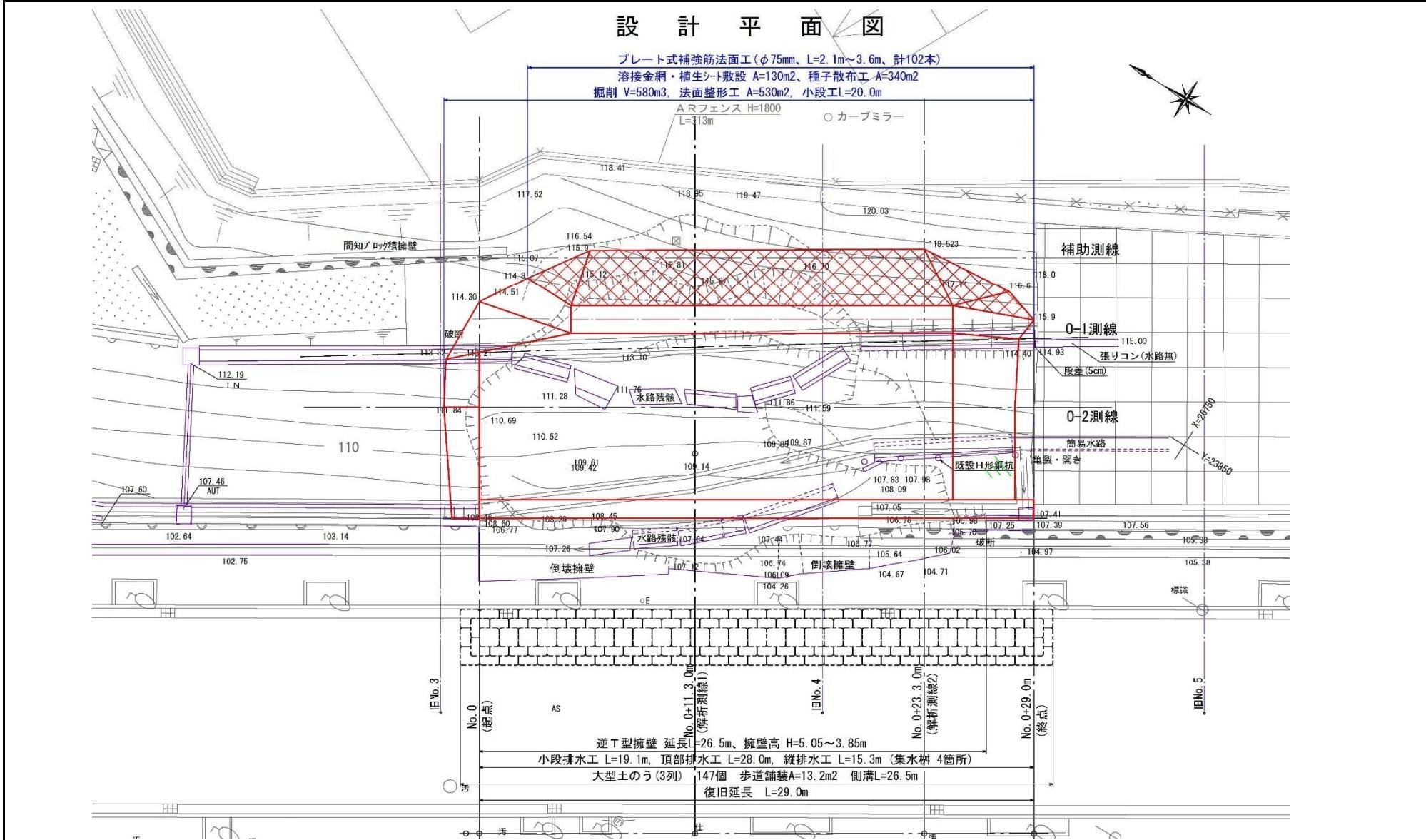
・抑制工：排土工(樹木や既設残骸混じり土除去)

・抑止工：末端部：突起付き逆T型擁壁工、頭部：鉄筋挿入工

[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

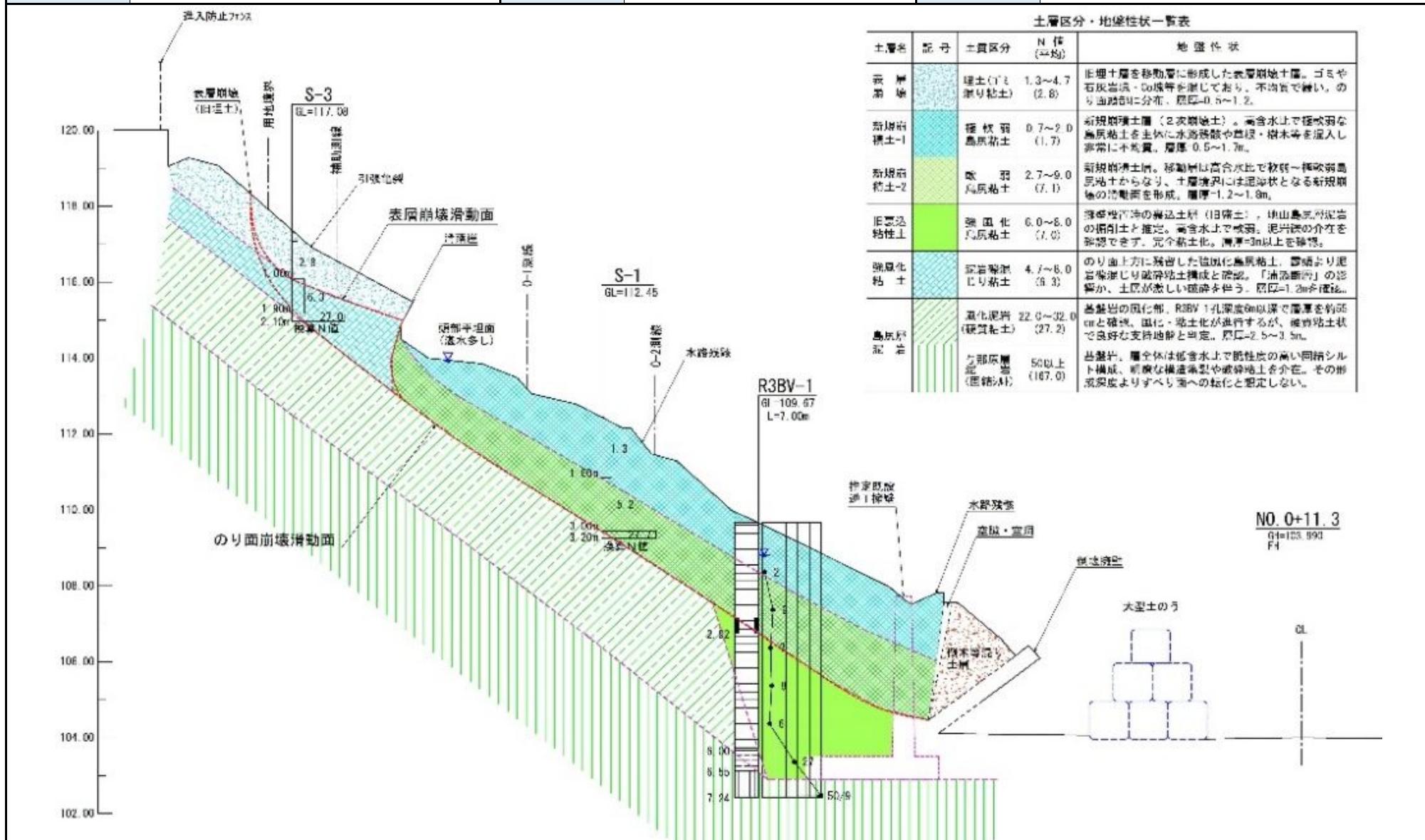
位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田	延 長	29 m				抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)		法勾配	崩壊前 1:1.25 ~ 1:1.40	完成年月	昭和55年以前と推定		



[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 0 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ワック積み擁壁
所在地	浦添市前田			延 長	29 m		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)		法勾配	崩壊前 1:1.25 ~ 1:1.40		完成年月	昭和55年以前と推定	

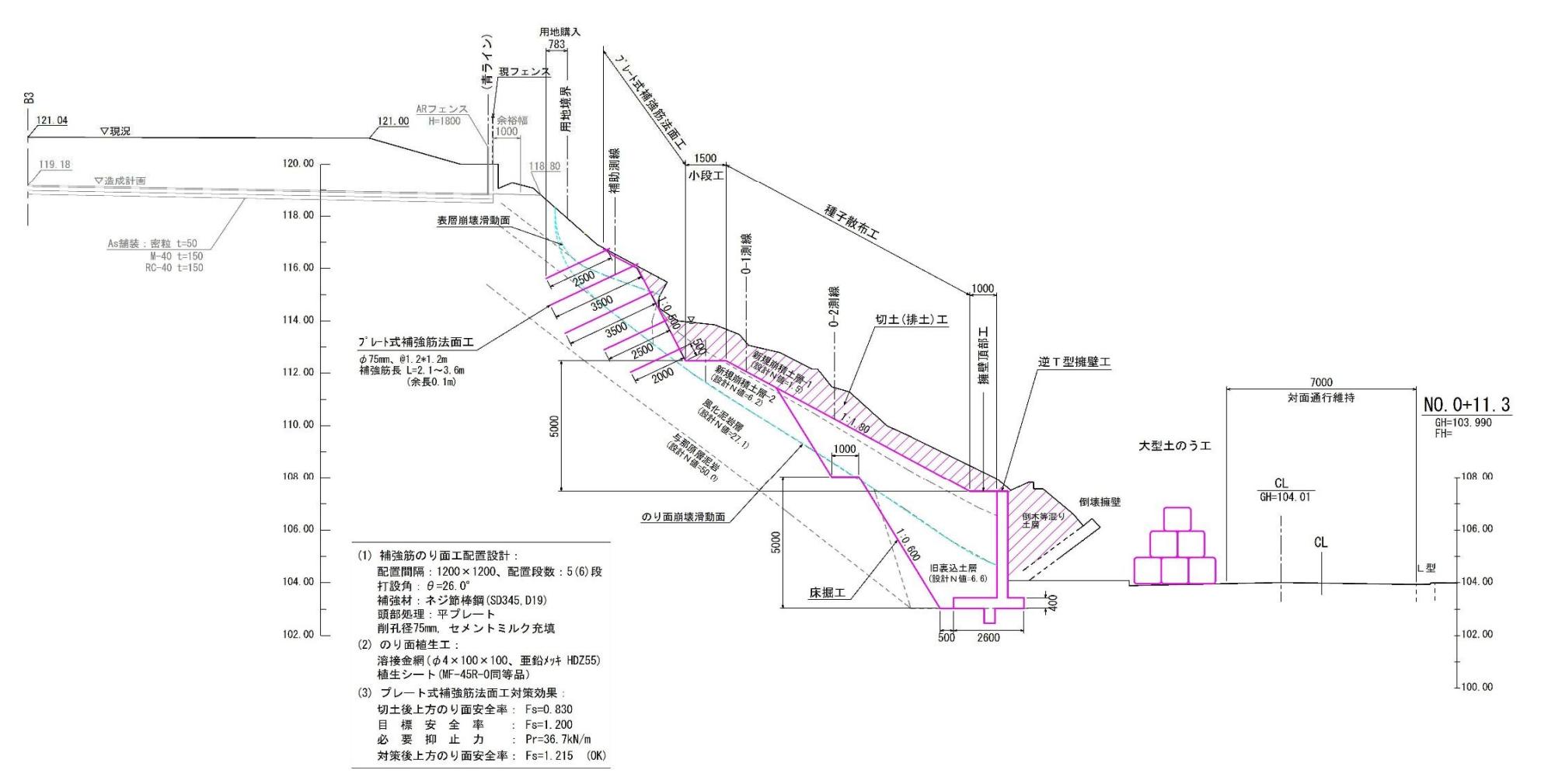


[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 0 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知 ^{アシ} 積み擁壁
所在地	浦添市前田			延 長	29 m		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)		法勾配	崩壊前 1:1.25 ~ 1:1.40		完成年月	昭和55年以前と推定	

対 策 標 準 断 面 図



[様式3]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 15.0 m 3 段	対策工	抑止工	逆T型擁壁、間知ブロック積み擁壁
所在地	浦添市前田			延 長	29 m		抑制工	簡易排水路
路線名	浦添西原線(県道38号線)		法勾配	崩壊前 1:1.25 ~ 1:1.40		完成年月	昭和55年以前と推定	

